

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970400388		
法人名	有限会社グループホーム・ナーシングハピネス		
事業所名	グループホーム・ナーシングハピネス		
所在地	栃木県佐野市小中町2011-4		
自己評価作成日	平成26年11月10日	評価結果市町村受理日	平成27年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護する職員が、11人中9人が、医療資格(看護師、准看護師)保持者で医療リスクの高い認知症高齢者の介護は、職員話し合いながらの介護のため、医療に対する不安は、最小限であると思う。また昨年9月より、4週間に1度往診してくださる医師を家族の紹介で変え、往診時に一人、一人の入居者に対して密な身体状況、精神状態の把握を報告し、指示をもらったり、食事の内容、血液検査の結果等、職員の日々考えている意見をしている。食事の内容は、常に目食を大切に考え提供している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は市の西部に位置し、田中正造の生家や神社が近くにある。周辺には田畑や住宅が広がる地域に密着したホームである。事業所の塀は作らず、気軽に地域の方が立ち寄れるように配慮をしている。近隣住民からの野菜・季節の果物のおすそわけがあるほか、地域の子供達が遊びに来ている。職員に看護師が多く、いち早く利用者の状態を察知し、対応ができるので、安心感・安堵感がある。家族より「事業所での看取り希望」が多い。管理者は現場職員の声を常に吸い上げているうえに、職員のスキルアップの為、多くの研修会に参加させている。利用者の高齢化が進んでいるため、災害対策として総合防災システム会社と提携し、避難訓練や防災機器の使い方などの訓練を定期的に行っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成26年11月25日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念の一つでもある快適で安全な共同生活を念頭に日々の研鑽、地域との交流を実践につなげている。	「快適で安全な生活の支援、安らぎの場の提供」という趣旨の理念を常に念頭に置き、日々話し合いをし、より良いケアの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	室外に入居者共々出て、通りすがりの近所の方たちと話したり、近隣施設の運動会、文化祭等参加させてもらっている。年始の挨拶、ホーム内のイベント等はホームだより等配布している。	自治会に入会し、日常的に挨拶を交わすほか、地域清掃・運動会・文化祭等の活動にも参加している。イベント時のホームだよりの配布や長寿利用者の誕生日には紅白饅頭を配布するなどして、地域との交流を図っている。市内のボランティア訪問も受け入れている。近隣の障害者支援施設とも交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護保険に関係するパンフレットを佐野市役所からいただき、地域の方にホームだよりとともに配布した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会を通して、成年後見人制度の話や、ボランティアの協力が得られて、家族のホームに対する行事参加が多くなった。	運営推進会議は2ヶ月に1度、利用者・家族・民生委員・市職員・自治会長・近隣住民等の参加により開催している。事業や利用者支援状況等の報告をし、参加者から、素直な意見や要望等が出されている。出された内容は協議を重ねながらサービス向上に役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	特に今回は、ハピネス更新申請のてずずきがありホームの状況を話す機会が多くあり、より多く理解、協力してもらった。	市担当者には運営推進会議の参加時に事業所の現状や課題を把握してもらっているほか、介護保険制度上の情報提供や支援に関するアドバイスを貰うなどしている。電話でのやりとりでわかりにくい場合など、市職員が事業所に来所してくれることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年3月佐野市の実地指導があり改めて身体拘束について話し合い、パンフレットを使用してフィードバックしてみた。介護度が高い入居者が多くなり、玄関の施錠他拘束外の介護ができています。	全職員が身体拘束をしないケアを意識し、抑圧感のない暮らしの支援に取り組んでいる。言葉における拘束等にも注意をしてケアにあたっている。実地指導により、見直しを行い、さらに意識を高めている。玄関施錠は夜間のみとし、安全を確保しつつ抑圧感のない自由な生活を支援するための工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	取り組んでいる。		

(有)グループホーム・ナーシングハピネス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進委員会通して、また、利用者家族が成年後見制度を利用しているため、家族を通して学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約に関する説明をして納得された上でサインをもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望等聞いて反映している。月1回の面会時家族、職員、入居者交えてより多くコミュニケーションをとっている。	利用料支払時等に、利用者・家族・職員でコミュニケーションの機会を持ち、お茶を飲みながら、要望等を聞く工夫をしている。誕生会・ボランティア来所等のイベント時に家族に声をかけ、より多く家族の心情を察すようにし、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	組織図は、ピラミット状の形だが、すべての職員が同じ立場と思っている。ほとんどの職員が代表、管理者より前職場では、先輩だったので先輩たちの意見は、十分聞いて又反映させている。	職員に看護師が多いため、利用者の身体状況の把握が的確で、身体向上のための様々な提案をしている。また、職員は、内部研修や外部研修後の伝達でスキルアップに努め、管理者は職員の提案や意見を取り入れてケアや運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	切磋琢磨しながら、ともに話し合い環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップの為に多く研修会には参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐野市のケアマネの研修会には参加して交流をもつようにしている。又佐野市グループホームの会があり参加している。		

(有)グループホーム・ナーシングハピネス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴して聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話の中から、救われている自分に築くことができる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	長い家族は、12年月1回は面会時会話している。度の家族も利用者との時間職員も交えて雑談変えられることが多い為か、この季節衣類の話等している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が余りにも高齢なので、本人を取り巻く知人は、もういないことが多い。家族の面会がほとんど。	利用者の友人等も高齢となり、来所はほとんどないが、家族や踊り・オカリナ・ハンドベル・三味線等の地域ボランティアとの関係継続を努めている。また、地域の方に気軽に来所してもらえよう工夫をし、菜園の手入れを教えてもらったり、野菜の差し入れ等をしてもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共用場所が狭い為か利用者同士慰めあったり、昔話に花を咲かせたり、口論したりしている。		

(有)グループホーム・ナーシングハピネス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一人の利用者は、夫他界後1年3ヶ月経過してから妻が入居した。それまで度々おしりふきのぼろ布を持ってきてもらって協力してもらっていた。他にも例はある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できるだけ遺構に相改組したいと思っている。	日々の表情やしぐさ、何気ない動作から希望や意向を把握している。今迄の生活歴等の会話をすると、話が弾み、把握しやすい。意思表示が困難な場合でも、家族との関係を良好にし、スムーズに情報のやりとりができるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等聞いて会話に引き出している。戦時中の話が特に乗ってくる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、介護記録をみてから、その日の介護にあっている。一人、一人の観察は十分に思う。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の充実に現在力を入れている。	3カ月毎に利用者及び家族のニーズを踏まえ、職員で話し合い、日々の記録や連絡帳をもとに短期目標・長期目標の見直しをし、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	できていると思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できていると思う。		

(有)グループホーム・ナーシングハピネス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣組のボランティア(オカリナ演奏)民生委員のかたの協力でエプロンシアター-のボランティア等常にきを使ってもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	平成25年9月～入居者家族の紹介により、4週間に1回のペースで往診に来てもらっていて、2週間に1回のペースで内服薬のセッティングに来てもらっている。又時に医師に状況報告し臨時往診もあり、入居者の健康管理には、十分気を使っている。	かかりつけ医への通院を職員対応で行っている。時折、病院にて家族と待ち合わせをしている。多くの利用者が協力医をかかりつけ医としていて、月1回の往診がある。職員からの報告や薬剤師による2週間に1回の内服薬のチェック等にて適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の資格が9人ありながら介護にあたり身体の観察、異常の発見はいち早いようである。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医と入院先の医師との連絡が取れているようで特に問題ない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	毎月1回利用料払いながら見える家族の面会時入居者の状態を報告している、また状況により随時報告をしている、その時看取りの確認もとっている。	利用契約時に看取りについて説明し、事前確認書・同意書を作成している。多くの利用者が看取りを希望しており、重度化した場合や終末期には、夜勤者を2名体制にするなどの対応がとれるようにして、医師の指示のもと支援している。職員に看護師が多く、看取りの経験も積み重ねている。	多くの看取りの経験があるが、看取り加算はとっていない。今後、看取り加算も視野に入れることにより、更なる体制の充実を図り、看取り対応の強化に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	経験豊富な職員が多い為、判断に今のところ問題ない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に対する訓練を平成25年度は、毎月1回いろいろな形で行っていた。平成26年度も毎月ではないが、自然災害等の対策を話し合っている。時に消防職員、防災器具メンテナンス職員にアドバイスをもらって職員の意識向上につなげている。	消防署指導のもと、消火器訓練・通報訓練・夜間想定訓練を実施している。また、総合防災システム会社にアドバイスを貰ったり、自然災害対策の話し合いにより、職員の意識を高めている。地域住民等に協力を仰ぎ、職員連絡網への加入依頼をし、訓練にも参加してもらっている。	派出所(警察署)に広報紙の配布等をし、避難訓練に参加にもらい、防犯対策も含め、利用者一人ひとりの状態を把握してもらう事に期待したい。

(有)グループホーム・ナーシングハピネス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄介助時等プライバシーの尊厳に期おつかっている。	利用者の気持ちを大切に考え、自己決定しやすい言葉かけやさりげない対応に配慮している。入浴介助や排泄介助は一人ひとりの尊厳ある姿を大切に支援している。写真展示等においても、注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望に沿うよう援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意志表示のできない入居者に対しては、職員側ペースであるが、そうでない入居者に対しては、本人の希望に沿うよう援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗面介助時身だしなみの援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	どの食事の時が入居者の反応良かったか観察して、食事の提供を心がけている。食事の準備は現在難しい。	食材は週に1度の宅配を利用しているが、菜園で収穫した野菜や近隣住民からの差し入れも使用して調理している。献立は栄養士の協力を得ている。食事摂取量や水分摂取量も考えた支援をしている。食事形態や代替食・嗜好においても個別に対応した支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢者の一日摂取量のチェックしたり健康診断の結果による食事のバランスを考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕の食後は口腔ケアをしているが、昼食後は水分で口腔内をきれいにしている。		

(有)グループホーム・ナーシングハピネス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ、日中はパンツを使用して、トイレに誘導して排泄援助している。	夜間はオムツやリハビリパンツを使用している利用者も、日中は可能な限りトイレでの排泄ができるように排泄チェック表の活用や誘導等の工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、食もつ繊維の多い食事の工夫をしているが、排便状況をチェックして緩下剤の服用、腹部マッサージ、時に摘便、浣腸している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はなかなかできていない。	1日おきの午後に入浴の支援をしている。高齢化に伴い、2人介助の対応をとっている。湯船に入ることが難しい利用者にはシャワー浴で対応している。菖蒲湯や近隣住民から柚子をもらい、柚子湯に使用するなど、季節に応じた入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	介護度の軽い入居者は環境整備等の援助だが、思う入居者は、状態観察の上安眠援助、休息の援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員の中で9人が准看護師、看護師であるため服薬支援は、問題ないと考える。又疑問の点があれば、薬剤師、往診時の医師に質問している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族の協力も得て、夕食時に晩酌する入居者2名いる。本人の希望によるが。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ外に出かけられるよう支援している。	利用者の高齢化により外出が困難になっている実情であるが、体調等に考慮しながら、日常的に事業所周辺を散歩したり、季節ごとに計画を立ててのドライブに出かけている。庭でお茶会や食事会などを実施して、少しでも戸外へ出る機会を作っている。	

(有)グループホーム・ナーシングハピネス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している入居者はいるが、大切なお金使おうとはしない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在電話、手紙を書くレベルの入居者はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度には、特に気をつけ共用の空間が狭い為換気にも気をつけている。	食卓を囲むリビングや台所、浴室など共有空間は家庭的な雰囲気がある。温度や湿度、換気が適切に管理され、自然光が差し込む居心地の良いリビングにはイベント時等の写真が飾られていて、利用者職員間で会話が弾んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特別の行動はしていないが、自然と利用者同士話あったり、時に職員も交えて雑談することある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	キーパーソンでもある家族が月1回以上は、面会があるため、本人を交えての話し合いはしている。	ベッドからの転倒防止に配慮した畳部屋など、一人ひとりが安心して暮らせる居室となっている。家族写真が飾られているなど、自由に飾り付けをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	介護度の軽い入居者になってしまうが、筆筒の中から自分の好みの衣類の着用したりしている。		